



市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎36-7117

今月のテーマ 町内会・自治会に『女性部』は必要ですか？

～この問いかけに あなたならどう答えますか～

■ 性別による役割分担への違和感

「私の自治会には『女性部』があります。活動はお茶くみ、炊き出し、スポーツの点数付けなど性別に関係なくできる仕事。『女性部』という名称をやめ、性別に関わりなく役を回してほしい」という島田市内に住む女性の声を基に、静岡新聞社「NEXT 特捜隊」が取材したWeb記事が5月中旬、インターネットサイトYahoo!のトップページに掲載されていました。投稿者は、「時代に合わせて組織の在り方を変えるべき」と思っているものの、人間関係の悪化を恐れて自治会に言い出せないでいるといいます。これまで、市長への手紙にも同様の意見が複数ありました。今月は、この件について、市民の皆さん一人ひとりに「あなたはどのように考えますか」と問いかけてみたいと思い、テーマとします。

投稿者が住む自治会では、女性部活動は恒例のものとして続いていて、同様の意見が議題に上がったことはないといいます。但し、自治会内には性別を問わずさまざまな意見や苦情が寄せられることがあり、活動改善のためにも積極的に意見を寄せてほしいとのことでした。「直接言いにくい」という声に対して、自治会長は、匿名で投書できる目安箱の設置を検討したいと仰っておられました。

■ 社会変化に遅れるローカル・ルール

ここまで読んで、皆さんはどんな感想をもたれたでしょうか。高度成長期以降、目まぐるしく変化した日本社会のありよう(制度・価値観・生活様式・働き方など)に、地域社会の慣習が追い付いていかない軋轢が、さまざまな分野で表面化しています。その一例が自治会活動における『女性部』の存在ではないか、私はそのように感じました。

今から40～50年前なら、「男性は仕事、女性は家事・育児」の性別役割分担に違和感をもつ人は少なかったと思います。女性たちも男性の補助的仕事に抵抗感がなく、女性部(婦人部)の活動は女性たちの楽しみのある場でもあったように思われます。

しかし、この半世紀の間に人々の暮らしも価値観も劇的に変化しました。共働きは当たり前になり、女性の管理職も増え、家庭内における女性の発言力も増えています。それでもローカル・ルール(地域社会の慣習)は、いまだ男性社会のまま。そのギャップが「PTAの役員も、スポーツクラブの親の役割も、男女の役割が明確に分かれていて、もはや提案できる雰囲気はない。男女平等が浸透するま

でまだまだ時間がかかる。自治会も同様」という女性たちの嘆きに繋がっているように感じます。

■ 顔が見える関係が果たす役割

人に頼らなくても便利で豊かな生活を享受できるようになったゆえに、地域の繋がりは年々希薄化し、自治会がなくても何も困らないと考える人が増加しました。しかし、本当にそれでよいのでしょうか。住み慣れた土地で、高齢者も子どもたちも安全に、安心して暮らし続けられるのは、自治会やコミュニティ等、顔が見える関係が地域の見守り役を果たしてくれているからと私は考えます。多様な価値観に触れ、親以外の信頼できる大人に見守られて育つ環境は、子どもたちの健やかな成長に欠かせないものです。

自治会活動には、あらゆる立場の多様な意見が必要です。男性側には女性が違和感をもっていることに気づく配慮が、女性側には地域の役から逃げずに参加する姿勢が、それぞれ必要ではないでしょうか。女性が一人で声を上げにくいなら、何人かで声を上げてみてください。

■ 多様な立場を認め合う自治会へ

市では、性別役割分業意識を取り除く啓発活動や、自治会役員に2人以上の女性を登用した自治会に年間10万円を交付する「自治会役員女性参画推進奨励補助金」制度などを実施しています。

防災をはじめ、地域づくりには性別を超えた協力が不可欠です。言い出しにくいからと我慢するのではなく、女性も自ら率先して意見を伝えることが、自治会を変えていく一歩のように感じます。市内68自治会長はどなたも、住民の声に真摯に耳を傾け、改善しようと努力してくださっています。



検証ワークショップ「島田がこうなったらいいなをプチ実現したらどうなるの？」